

今回で5回目となる千歳市民ミュージカルが、11/15、11/16の2日間にわたり、北ガス文化ホールで上演された。今作「文の見た空」は、千歳村民手づくりの着陸場造成から現代までを描いた百年の物語。演者たちの熱演に、会場からは惜しめない拍手が送られた。

千歳市民ミュージカル第5回公演  
あや

# 文の見た空 堂々終演!



公演を締めくくると、全員集合のラストシーン。第1回から受け継がれる名曲「君が来た道」を、手話を交えて歌った。



幼くして千歳に移り住み、やがて結婚し、3人の子の母となった文。本作では文の視点から、飛行場とともに成長していく千歳のまちの姿、激動の時代を生き抜いた人々の姿を描き出す。



老年期



幼少期

## 演者の声 COMMENT

田中美緒さん 森田(田畑)文 役



100年前に文のような女性がいたと信じ、当時の背景や想いを自らの人生経験と重ねて演じる事への挑戦を続けてきました。手づくりで着陸場を築いた先人の明るい未来を信じる力に、感動と敬意を抱きます。時代が変わっても変わらない想い、夢と希望と光を信じて行動する事が、先人から受け継いだ私たちの役割だと感じています。

酒井英利さん 渡部栄蔵 役

空港で働く者として本作品に深く関わることが大変光栄なことです。着陸場ができてからもうすぐ100年。千歳は経済的に発展した一方、文化芸術の面ではまだ発展途上だと思います。豊かな人間性を育むためには、文化芸術の振興が肝要だと考えます。市民による表現活動が、もっと身近になってもらえればと願っています。



小笠原愛さん 小川(居壁)吉江 役



初めて空港を訪れたのは幼稚園の頃。空港で働く父の姿を見て誇らしく思った記憶があります。今では誰もが簡単に利用できますが、それも100年前に着陸場を建設した先人たちの力があってこそ。過去・現在・未来、空港に関わる全ての方々への敬意を込めて作品を作り上げました。



## ダンス & 音楽

観客の目を釘付けにするダンスと、心に残るミュージックは今作でも健在。以前からおなじみのメンバーに多くの若い世代が加わり、迫力、華やかさともに大きくパワーアップした。

## DANCE & MUSIC



本作は、千歳のまちの物語であるとともに、文という一人の女性の物語でもある。懸命に働き、子を育て、家族の明日を信じ続ける文の姿に、多くの人が共感した。



## スタッフ選出 名場面集

- 「飛行機を間近で見たい」との願いから、村民総出で着陸場を造成。事にあたって一致協力する“スピリット・オブ・チトセ”を体現する象徴的シーン。
- 千歳着陸場に降り立ったパイロットの酒井憲次郎が、村民から歓迎の花輪を受け取る。1926年10月22日の、空港開港を告げる歴史的な第一歩を再現。
- 米軍パイロットのティムと恋に落ちた、文の長女、睦月。許されない恋だとわかっていながらも、二人で過ごせるわずかな時間を噛みしめ、ダンスを踊る。
- 時は流れ、100歳となった現代の文。アメリカから帰国した幼馴染の高次と再会し、これまで出会った人々の英霊に見守られながら、涙の抱擁を交わす。